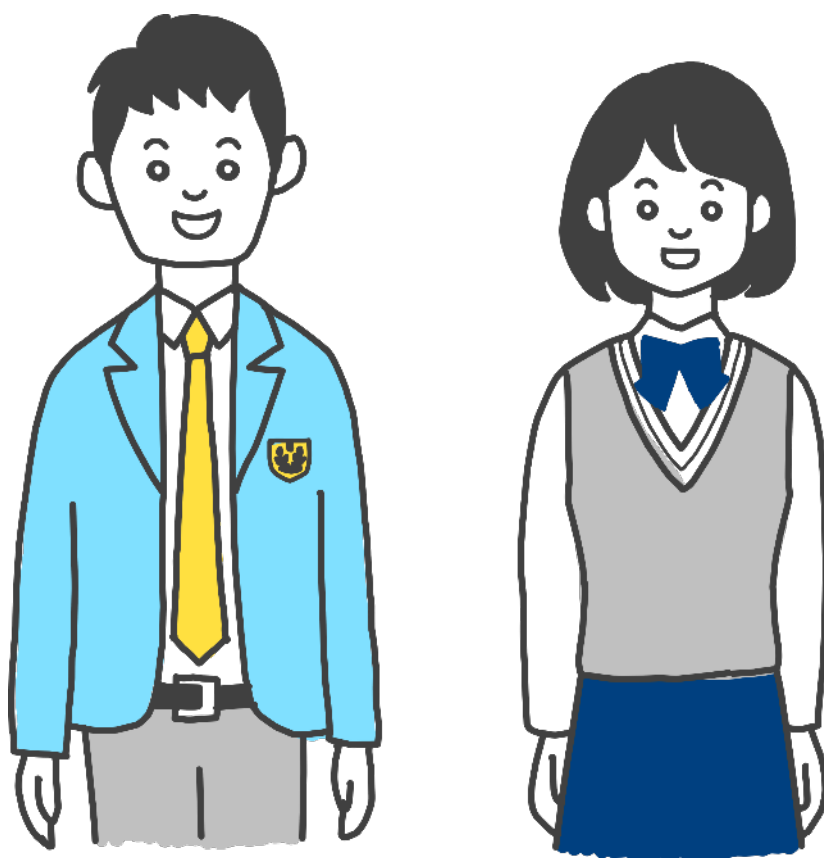


デジタル社会の

消費生活

Think your Life & Money

教師用 指導手引書



はじめに

本書は、高校生向け教材「消費者保護のための啓発用デジタル教材」の指導書として作成いたしました。学校の授業で使用する際のモデルプラン、教材の使い方や留意点を掲載しています。

モデルプランは、「家庭基礎」を想定して5時間で授業を完結させるよう組立てられていますが、「家庭総合」にも対応できるよう、多くの教材を掲載しています。生徒の実態に応じて教材を取捨選択したり、構成を組替えてご利用ください。自習が可能な教材もあります。

本教材の最大の特徴は、高校生が消費生活の様々な場面で起こることを「自分ゴト化」して捉えられるよう、パワーポイントスライド、動画・アプリ・ワークシートなど各教材に工夫を凝らした点にあります。各時に主体的・対話的な活動を組み込み、パワーポイントスライドのノート部分には教材の使い方や授業の進め方のアイデアを掲載し、すぐに授業で使えるようになっています。

■消費生活のデジタル化への対応

新型コロナウイルス感染症の拡大や新しい生活様式への移行に伴い、消費のデジタル化が加速しています。インターネット通販やキャッシュレス決済の増加など、消費生活のデジタル化が進展する中で、変化に対する消費者の理解は十分とは言えません。変化が速く、新たな消費者トラブルを防ぐルール整備も十分に追いつきません。消費者自身が、トラブルを防止する術を身に付けることが不可欠です。

デジタル化の進展に伴う消費者被害の発生や拡大を防止するためには、若年者を中心とする幅広い世代の消費者が安全・安心に消費生活を送るための知識を習得することが必要です。同時に、デジタル教材の活用によりデジタルツールの利用に慣れ、デジタル技術を使いこなせるようになることも、変化に対応するための重要なポイントです。

■18歳成年に対応した判断力の育成

2022年4月1日から成年年齢引下げが施行されます。仕組みが複雑化し、ルールの整備が未確立なデジタル社会で、生徒達は18歳から成人として意思決定していかなければなりません。若年層の消費者トラブルを防止できるよう「知識」、「思考力」を深め「自分で決める」、「比較して選ぶ」など、「判断力」を身に付けることを目指した教材を用意しています。是非、高等学校家庭科の授業でご活用ください。また、必要な部分を取上げ、高校生や家庭科授業以外の場面でも自由にご利用いただけます。

教材の構成

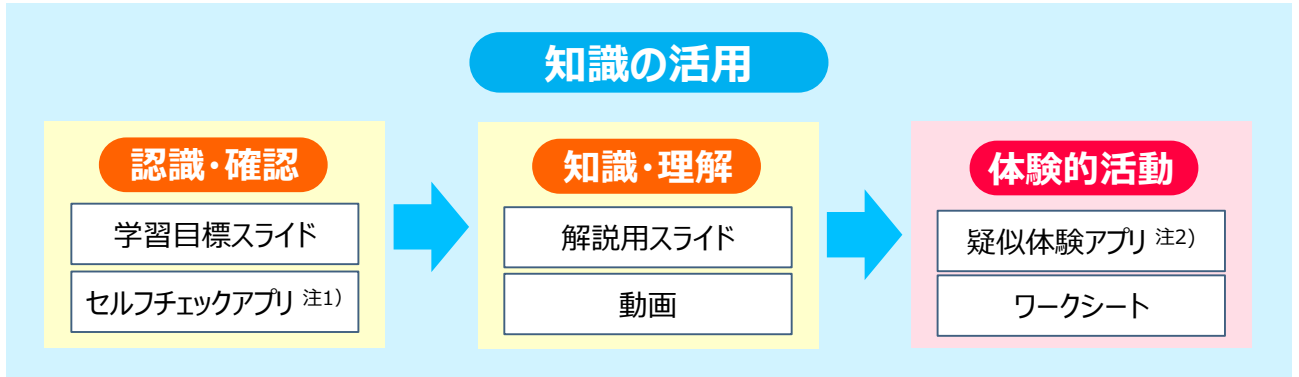
高等学校学習指導要領「家庭基礎」内容C(1)生活における経済の計画(2)消費行動と意思決定が、5時間で学べるよう構成しています。デジタル時代の18歳成年に対応できるよう、「知識」と「思考力」を深めた上で、「自分で決める」、「比較して選ぶ」など、「判断力」を身に付けることを目指した教材を用意しています。

学習内容

1 時限目	情報の収集・比較と意思決定 情報を集めて比較する力、主体的な意思決定の力を磨く。
2 時限目	購入と契約 デジタル時代の様々な購入の方法とルールを理解する。
3 時限目	支払いと信用取引 様々な支払いの方法の特徴と仕組みを理解する。
4 時限目	消費者の権利と責任 契約に問題が生じた場合の救済方法を知る。
5 時限目	生涯を見通した経済の管理 限りあるお金を有効に活用する方法を考える。
まとめ	学習の振り返りとまとめ 本教材で学んできたことを、クイズやライフプラン体験アプリで振り返る。

学びを深めるしかけ

全ての授業に知識・理解を深めるためのスライドや動画と、学習した知識を活用した体験的活動をするためのワークシートやアプリがあります。スライド・動画は、調べ学習の資料として使うことも可能です。



注1) 1 時限目 注2) 2 時限目、4 時限目

授業アレンジ例

モデル授業案では、高等学校学習指導要領「家庭総合」内容C(1)生活における経済の計画(2)消費行動と意思決定に対応した内容が学べるようになっていますが、あくまでも一例です。各教材を自由に組合せ、オリジナルの授業を組んでいただいたり、必要な教材のみを授業に取り入れるなど、自由に活用いただけます。

例1 生活設計やローンの仕組みを理解した上で
お金の管理アプリで、人生設計をしてみる

5 - 1
text

+

5 - 2
text

+

5 - 8
app

例2 契約の基礎知識を学んだうえで
デジタル上の取引を理解する

2 - 2
text

+

2 - 3
movie

■ パワーポイント教材の利用にあたって

環境によりスライドの文字が見づらい場合は、必要に応じて色を変更してご利用ください。
スライドは、PDF形式に変換することでICT活用授業支援アプリでの活用が可能になります。
ワークシートのスライドを支援アプリに載せることで、生徒の進行状況の把握や生徒同士の意見の共有をリアルタイムで行えるようになり、共同学習を効果的に進めることができます。

■ 画像の利用にあたって

動画を停止し、クイズの反応を確認したり、解説を加えながら進めていくことも可能です。

■ 表示について

デジタルコンテンツの表示サイズは、スマートフォンに合わせています。

■ 使用環境について

【PCでのご利用】

Windows 8.1 以上
・Microsoft Edge 最新版
・Google Chrome 最新版

Macintosh OS X 以上
・Safari 最新版
・Google Chrome 最新版

【スマートフォン・タブレットでのご利用】

iOS 12.0 以上
・Safari 最新版

Android 7.0 以上
・Google Chrome 最新版

※推奨環境下のご利用でも、OSとウェブブラウザとの組み合わせや、ウェブブラウザの設定状況によっては、ウェブサイトの表示等に不具合が起こる場合がありますので、あらかじめご了承ください。

- 自己傾向を把握
- 主体的な意思決定が妨げられる場面
- 意思決定のプロセス
- 契約前の比較と検討
- 主体的な意思決定

■ 学習のねらい

自分が主役の生活を送るために、主体的な意思決定の力を磨く。

導入では消費生活と主体的な意思決定の力について学び、自分の「だまされやすさ」の心理傾向を診断。その結果を受けて、「主体的な意思決定が阻害される場面」について理解を深めます。最後に、具体的な事例を基に考えます。

■ 使用する教材

基礎	1 - 1 text 学習目標 自分が主役の消費生活＝主体的な意思決定の力を磨くには？ 授業の目標を確認します。 安易な意思決定により、無駄な支出や様々なトラブルが発生したり巻き込まれたりする事例を通じ、主体的な意思決定の重要性を学びます。
基礎・発展	1 - 2 app チェックしよう！「だまされやすさ」の心理傾向 15の問いに答えて、自分の「だまされやすさ」を測定するデジタルコンテンツです。 自身の心理傾向を把握しましょう。
基礎	1 - 3 text 意思決定のプロセスを理解しよう 主体的な意思決定が消費生活の基本です。意思決定の5段階を学びます。
発展	1 - 4 text 主体的な意思決定が妨げられる場面を知ろう 適切な判断と行動ができない状況とは何か？ その原因や日頃から気を付けるべき6つの視点、景品表示法の違反について学びます。
基礎	1 - 5 movie インターネット広告の仕組みや注意点とは？ SNSやインターネット上の広告について学びます。SNS上の広告をきっかけとした消費者トラブルの事例について、トラブルの原因や注意点を紹介します。
基礎・発展	1 - 6 work 契約前に必ずしよう！～情報の収集と比較～？ エシカル消費やSDGsなどの商品選びの視点を学び、比較する観点と優先順位を考えるワークです。

＜授業アレンジ＞

モデル授業案では、高等学校学習指導要領「家庭基礎」内容C(1)生活における経済の計画(2)消費行動と意思決定に対応した内容が学べるようになっていますが、あくまでも一例です。各教材を自由に組合せ、オリジナルの授業を組んでいただいたり、必要な教材のみを授業に取り入れるなど、自由に活用いただけます。

＜発展＞マークのついている教材・箇所は、発展的、応用的な内容です。授業時間に余裕がなければ省いても構いません。

■ 授業の流れ

時間	教材・備考	学習内容とねらい	教師の支援
導入 3分	1-1 text 学習目標 自分が主役の消費生活＝主体的な意思決定の力を磨くには？ 学習目標 1  自分が主役の消費生活＝ 主体的な意思決定の力を磨くには？  成人年齢は20歳から18歳に 20 → 18  主体的な 意思決定	1.学習目標を理解する 【めあて】 消費行動における意思決定の重要性について具体的事例を通して理解する。 ①成年年齢は20歳から18歳に。 ②安易な意思決定により、無駄な支出が発生したり、様々なトラブルに巻き込まれたりする。 ※事例①と事例②を確認。 ・事例① 責任ある意思決定・広告や表示への批判的思考 無料のライブ配信で。 ・事例② 責任ある意思決定・広告や表示への批判的思考 ネット広告。 ③18歳から成人として主体的な意思決定が求められる。 【指導のポイント】 安易な意思決定により、無駄な支出や様々なトラブルが発生したり巻き込まれたりする事例を通じ、主体的な意思決定の重要性を認識させる。 ＊18歳には成人として責任ある意思決定が求められることを確認する。	2022年4月からの成年年齢引下げに伴い、18歳には成人として責任ある意思決定が求められることを強調する。 後ほど行うワークについて、先に説明し、授業に関心を向けるとよい。
	主体的な意思決定の力を磨くポイントは？		

1 時限目

時間	教材・備考	学習内容とねらい	教師の支援
展開 ① 5分	1-2 app チェックしよう！「だまされやすさ」の心理傾向  ■ TOPページ  ■ 設問15問    ■ 診断結果 	2. 自己傾向を把握 QRコードを読み取り、表示されるチェックリストを用いて、自分の「だまされやすさ」を測定する。 https://www.caa.go.jp/future/project/project_001/material/pdf/project_001_190329_0001.pdf  ＜発展＞ アプリ“チェックしよう！「だまされやすさ」の心理傾向”を用いて、自分の「だまされやすさ」を測定する 【採点結果例】 採点結果は、5 パターン 60点以上 勧誘を受けた時に契約してしまう危険度は70%！ あなたは性格的に、とてもだまされやすい傾向です！ 50点台 勧誘を受けた時に契約してしまう危険度は50%！ あなたは性格的に、ややだまされやすい傾向です！ 40点台 勧誘を受けた時に契約してしまう危険度は40%！ 性格的には、まあまあだまされにくい傾向のあなた 30点台 勧誘を受けた時に契約してしまう危険度は30%！ 性格的には、まあまあだまされにくい傾向のあなた 30点未満 勧誘を受けた時に契約してしまう危険度は25%！ 性格的には、だまされにくいあなた 【診断結果テキスト】 商品・サービスの価値 本当に必要なもの？ 購入・契約する価値があるもの？ 勧誘者の信頼性 相手は信頼できるのか？ 今だけ特別に親切なのではないか？ 場への拘束感 買わないと相手に失礼だと感じていないか？ 早く帰りたいなど、仕方なく契約しようと思っていないか？ 困ってしまう状況 支払いが大変な金額ではないか？ 誰にも相談せずに決めてよいのか？ 勧誘の強引さ 相手を少し怖いと思っていないか？ 強引で、断り切れないと思っていないか？ 説明への納得感 書面の内容を理解して、納得できたか？ 相手の説明に怪しい点はないのか？	チェックリストを次のような方法で提示する。 ・教師が画面に投影 ・印刷物を配布 ・生徒が手元の端末で表示する 人の性格はそれぞれであり、点数が低いのがよいのではないことを伝える。「自分はだまされない」という思い込みが問題であり、自分のだまされやすさを知っておくことで対策ができることを指導する。 チェックリストとアプリは同じ内容であるため、時間配分によってどちらかを選択する。

1 時限目

時間	教材・備考	学習内容とねらい	教師の支援
展開 ② 5分	1-3 text 意思決定のプロセスを理解しよう Text 意思決定のプロセスを理解しよう  Lesson 意思決定のプロセスを理解する  主体的な意思決定が消費生活の基本！ 	3.意思決定のプロセスを理解する 1)主体的な意思決定が消費生活の基本！ 2)意思決定の5段階 ①目的や課題の明確化 ②情報収集・解決方法の検討 ③解決方法の決定 ④実行 ⑤結果の評価・反省 【指導のポイント】 耐久財の購入や長期のサービス契約など、特に影響が長期にわたる重大な決定は、プロセスを踏まえて慎重に行うことが重要であることを理解させる。	意思決定には5段階のプロセスがあること、購入の意思決定では目的や課題が本当にあるのか、こういったものであるのかに立ち返って比較・検討していく必要があることを指導する。
展開 ③ 10分	1-4 text 主体的な意思決定が妨げられる場面を知ろう Text 主体的な意思決定が妨げられる場面を知ろう  Lesson 主体的な意思決定が妨げられる場面  1 商品・サービスの価値 本当に必要なもの？ 購入・契約する価値があるもの？  日頃から気を付ける6つの視点 	4.主体的な意思決定が妨げられる場面＜発展＞ 1)適切な判断と行動が できない状況を知る ・混乱 ・浅慮 ・誤信 2)心理的要因 ・性格が影響する場合 ・悩みや不安等が影響する場合 3)日頃から気を付ける6つの視点 ①商品・サービスの価値 ②勧誘者の信頼性 ③場への拘束感 ④否定的側面 ⑤勧誘の強引さ ⑥説明への納得感 4)景品表示法違反について ①景品表示法では ②3つの不当表示 ・優良誤認表示 ・有利誤認表示 ・その他 誤認されるおそれがある表示 【指導のポイント】 どのような状況になると主体的な意思決定が妨げられるのかを知り、ときにはこれらの状況に置かれることを警戒する重要性を理解させる。	主体的な意思決定が妨げられる場面に直面することは誰にでも起こりうることである。 「自分は大丈夫だ」と思うのではなく、トラブルに巻き込まれないよう警戒することが大事であることを伝える。 少しでも不審に思う勧誘は、その場で購入・契約をしないこと、信頼できる人に相談することを強調する。
	1-5 movie インターネット広告の仕組みや注意点とは？ インターネット広告の仕組みや注意点とは？ 	5.インターネット広告の仕組みと注意点 ・SNS上の広告をきっかけとした消費者トラブルの事例 ・ターゲティング広告の仕組み 【指導のポイント】 インターネット広告の仕組みと注意点を理解させる。 時間があれば途中で一時停止し、問題だと感じる広告を見たことがないかどうかなど生徒に問い掛け、実在する広告との関連を意識させ、理解を促す。	インターネット広告は生徒に身近なことから、実際に見聞きしたトラブルについて話す時間を設けるのもよい。 動画を停止し、クイズの反応を確認したり、解説を加えながら進めると、生徒が内容に集中しやすい。

時間	教材・備考	学習内容とねらい	教師の支援
展開 ④ 25分	1-6 work 契約前に必ずしよう！ ～情報の収集と比較～ Worksheet 契約前に必ずしよう！  Lesson 契約前の比較と検討   	6.契約前の比較と検討 1) 商品選びの多様な観点を学ぶ＜発展＞ ①エシカル消費とは？ ②SDGsとは？ 2) 購入前の比較と検討 “一人暮らしの部屋で快適に座りたい”という目的に応じた買物を考える。 【ワーク1】***** 比較する観点と優先順位を考えよう！ ***** 【進め方】 比較の観点を挙げ、優先順位を付けた上で、その観点に沿って候補となる3つの商品を比較させる。 →観点に沿って候補となる3つの商品の情報を表に整理させる。 →情報を比較し、自分がどれを選択するかを決定し、その理由をまとめさせる。 「安全性」が一番上に、「耐久性」と環境への配慮の観点は必ず入れさせる。 その他の観点は、スライドや教科書を参考に生徒が考え、記載させる。「品質」「費用対効果」など大きな概念は、ブレイクダウンするよう伝える。 観点の例は以下のとおり。 ・安全性 ・価格 ・環境への配慮 ・耐久性 ・使用頻度 ・地産品 ・デザイン ・置き場所 ・リサイクル商品 ・扱いやすさ ・サイズ ・廃棄しやすさ 【指導のポイント】 正解は無い。現時点での自分なりの考えをはっきりさせることが重要である。 比較するための観点とを考え、クラスメイトと情報共有して新たな観点を取り入れたり、自分なりに観点の優先順位を考えさせる。 ★批判的思考を基にした多面的な観点から検討し、商品を比較する大切さを伝える。ワークシートには、できるだけ金額など具体的な情報を入れるが、時間が無ければ○△×など記号でもよい。（知識・技能：ワークシート） 【ワーク2】***** 商品を選択し、その理由を説明しよう ***** 【進め方】 ワーク1で作成した表を基に1つの商品を選択し、商品を選択した理由や重視した観点を文章にまとめ、ワークシートに記入する。最後に、グループで内容を紹介し合ったり、クラス全体で発表する時間を設ける。 【回答例】 候補C 安全性を一番に考えたいので、少し高いですが、JIS規格をクリアしているCにしました。 【指導のポイント】 - 友人の考えを真似するのではなく、自分なりの意見を書かせる - 選択した商品の長所のみならず短所も認識させる - エシカル消費やSDGsの観点を含ませる ★選択した商品とその選択理由を発表する。多様な考えがあること、自分なりに理由を明確にすることが大事であることを確認する。 （思考・判断・表現：ワークシート、観察）	批判的思考をもとに、多面的な観点で考えることの大切さを伝えて商品を比較させる。 商品の選択理由をまとめ、最後に発表の時間を取り、多様な考えを共有できるようにする。 ワークシートのスライドを電子ファイルで配布すると、各自がタブレット上で記入することができる。 ワークシートのスライドをPDF形式に変換してICT活用授業支援アプリで配布すると、生徒同士の意見の共有をリアルタイムで行うことができる。
まとめ 2分		7.授業をふりかえる 契約の意思決定をする前に、冷静な心理状態で本当に必要なものかどうかを考えると、様々な観点から情報を批判的に読み解き、比較することの重要性を理解する。	（自分のだまされやすさや心理的要因を把握し、）今後、主体的に意思決定することができそうか確認する。

2 時限目 購入と契約



- 契約の基礎知識
- 契約はやめられるの？
- デジタル取引体験
- ネット取引でトラブルを防ぐ注意点
- 電子商取引の契約とは

■ 学習のねらい

デジタル時代の様々な購入の方法とルールを理解する。

デジタル時代の様々な購入方法を理解し、契約後の解約について考えます。
さらに、契約後の返品についてプロセスや電子商取引についての理解を深めます。
最後に、取引を行うときの注意点を具体的な事例を基に考えます。

■ 使用する教材

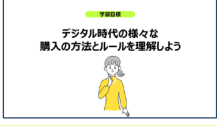
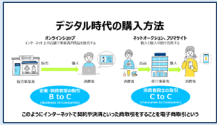
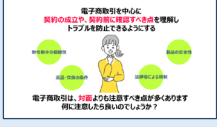
基礎  デジタル時代の様々な購入の方法とルールを理解しよう	2-1 text 学習目標 デジタル時代の購入方法とルールを理解しよう 電子商取引を中心に、契約の成立や契約前に確認すべき点（取引相手の信頼性、返品・交換の条件、禁止行為）を理解し、トラブルを回避するポイントを学びます。
基礎・発展  契約の基礎を確認 ～なぜ返品できたり、できなかったりするの？～	2-2 text 契約の基礎を確認～なぜ返品できたり、できなかったりするの？～ 中学校までに学んだ、売買契約の基礎を復習します。
基礎  電子商取引の契約とは	2-3 movie 電子商取引の契約とは 電子商取引での、契約が成立するタイミングや注意事項について学ぶ動画です。
発展  Practice & Experience	2-4 app デジタル取引を体験しよう ネットショッピングとフリマサイトの、取引のシミュレーション画面を進めながら、注意事項と取引の流れを学ぶデジタルコンテンツです。
基礎  まとめよう！ ネット取引トラブルを防ぐための注意点	2-5 work まとめよう！ ネット取引トラブルを防ぐための注意点？ 5つのテーマから1つのテーマを選び、ネット取引でトラブルを防ぐための注意点をグループでまとめるワークです。

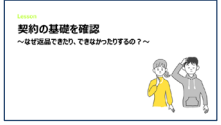
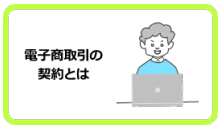
<授業アレンジ>

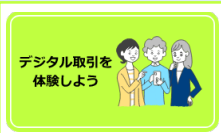
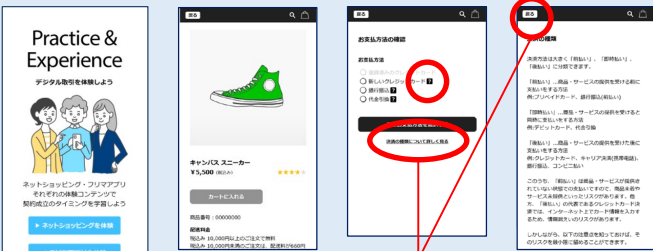
モデル授業案では、高等学校学習指導要領「家庭基礎」内容C(1)生活における経済の計画(2)消費行動と意思決定に対応した内容が学べるようになっていますが、あくまでも一例です。各教材を自由に組合せ、オリジナルの授業を組んでいただいたり、必要な教材のみを授業に取り入れるなど、自由に活用いただけます。

<発展> マークのついている教材・箇所は、発展的、応用的な内容です。授業時間に余裕がなければ省いても構いません。

■ 授業の流れ

時間	教材・備考	学習内容とねらい	教師の支援
導入 3分	2-1 text 学習目標 デジタル時代の購入方法とルールを理解しよう    	1. 学習目標を理解する 【めあて】 責任ある消費ができるよう、インターネットを介した通信販売などの具体的な事例を通じ、多様な販売方法について理解する。 ①電子商取引について ②電子商取引のトラブル事例 ・インターネットショッピングでのトラブル ③デジタル時代の購入方法 ④電子商取引を中心に契約の成立や、契約前に確認すべき点を理解しトラブルを防止できるようにする 【指導のポイント】 電子商取引を中心に、契約の成立や、契約前に確認すべき点（取引相手の信頼性、返品・交換の条件、禁止行為）を理解し、トラブルを防止できるようにさせる。電子商取引は、対面よりも注意すべき点が多いことを理解させる。 電子商取引とは インターネット上で商品やサービスを売買することを電子商取引と言う。事業者が運営するネットショップで購入する方法、オークション、フリマサイトなどで個人と個人の間で売買する方法などがある。 企業・消費者間の取引 事業者は、消費者に直接商品を販売し、決済手段も用意する。 事業者は、販売している商品に対する責任がある。 消費者は事業者の信頼性を判断しやすい。 消費者同士の取引 デジタルプラットフォーム企業は、取引先のマッチングと、決済手段の提供をする。商品・サービスについての責任は出品者にある。出品者の質はさまざま。消費者間のトラブルだと、消費生活センターも相談の対象外となる。購入する消費者の責任が、一層問われる。	電子商取引は対面での取引よりも一層注意しなくてはならない点が多いことを確認する。 後ほど行うワークについて、先に説明し、授業に関心を向けるとよい。
	インターネットでの売買契約では、こういったことを注意したらよいのでしょうか？ 具体的な事例を通して見ていきましょう。		

時間	教材・備考	学習内容とねらい	教師の支援
展開 ① 5分	2-2 text 契約の基礎を確認 ～なぜ返品できたり、できなかったりするの？～   	2. 契約の基礎を確認 ～なぜ返品できたり、できなかったりするの？～ 中学校までに学んだ、売買契約の基礎を復習する 消費生活の中で、様々な契約を交わしている。 【ワーク】 ***** 3つのケースについて、返品できるか、考える。 ***** 【進め方】 3つのケースについて、返品ができるか考えさせる。 回答の解説まではしなくてよい。 返品できるかどうかといった問題に、自分がかっきりと答えられないことを自覚し、これからの学習が重要であることを認識させる。 【ケース】 ・昨日、店で買ったスニーカー ・返品の条件が書かれていないネットショップ ・フリマで頼んだ腕時計、壊れていただけ ① 契約自由の原則 <発展> ② 契約成立のタイミング <発展> ・契約の成立に必要なのは当事者の合意 ③ 契約成立後の権利と義務 <発展> ④ 電子商取引での契約成立のタイミングとは？ <発展> 【進め方】 3つのケースで、返品できるかを考えさせた上で、 パワーポイントスライドを見せ、契約のプロセスを理解させる。 【指導のポイント】 契約は、原則として当事者間、つまり契約する本人同士の、自由な意思によって行われる。 ポイントは3点。 ① 契約の成立は簡単にできる。当事者が合意さえすれば、形式は問わない 口頭やメール、電話でも成立する ② 当事者がすること ③ 合意や承諾をしているということ 成立した契約は原則やめられないので 契約前に内容をしっかり確認することが重要であることを理解させる。 (他人に名義を貸した契約であったとしても自分の債務となるので、名義貸しには注意が必要。) 但し、契約内容が満たされない場合、契約の過程に問題があった場合にはやめる権利がある点に留意が必要であることを理解させる。	返品できるかどうかといった問題に、自分がかっきりと答えられないことを自覚し、これからの学習が重要であることを認識させる。 契約の基礎を理解していない場合は<発展>のスライドで解説する。 資料として配布し、生徒に読ませてよい。
展開 ② 4分	2-3 movie 電子商取引の契約とは  	3. 電子商取引での契約とは？ 契約成立の正しいタイミングは？ ① 事例紹介 ② クイズ＆解説 Q：ネットショッピングをする際、契約成立の正しいタイミングは、次のうちどれか A：正解 C ③ ネットショッピングなどの電子商取引で注意すべき点。 ・電子商取引の流れ ・注意すべき点 ・契約成立のタイミング	電子商取引では契約成立のタイミングなど、特有の取決めがあることを確認する。 動画を停止し、クイズの反応を確認したり、解説を加えながら進めると、生徒が内容に集中しやすい。

時間	教材・備考	学習内容とねらい	教師の支援
展開 ③ 10分	2-4 app デジタル取引を体験しよう  	4.「デジタル取引」を体験しよう！＜発展＞ 【アプリの進め方】 ①「ネットショッピングを体験」「フリマアプリを体験」のいずれかを選択 ②デジタル取引の流れに沿って注意事項が表示されるので、確認し進める。光っている箇所やマウスオーバーでポイントが変化する場所を押して進める ④購入までの流れと、契約成立のタイミングを確認する ⑤フリマアプリ（サイト）などでは、契約成立のタイミングは利用規約で規定されており、サイトによって異なる事を理解させる ケース 1 ネットショッピングの取引体験 ・特定商取引法に基づく表記の確認ポイント ・ショッピングカートでの操作 - 商品選択 - 支払方法の選択（クレジットカード） - 決済の種類について - 注文の確定 - 承諾メールの確認 ケース 2 フリマアプリの取引体験 ・商品画面での確認事項について ・購入手続き - 支払方法の選択（コンビニ払い） - 決済の種類について - 利用規約の確認 ・商品到着と評価について ■ネットショッピングを取引体験 画面（一例）  支払方法は、点灯している決済方法のみ選択可能です。 決済方法 ボタンを押すと決済方法の説明が表示されます。 また、決済の種類について詳しく見るから決済の説明が表示されます。 画面左上に表示される「戻るボタン」を押すと前の画面に戻ります。 ■フリマアプリを取引体験 画面（一例） 	契約の原則や消費生活における多様な契約とデジタル取引での契約の留意点を理解させる。

時間	教材・備考	学習内容とねらい	教師の支援
展開 ④ 20分	2-5 work まとめよう！ ネット取引トラブルを防ぐための注意点 Worksheet まとめよう！ ネット取引トラブルを防ぐための 注意点  まとめよう！ ネット取引トラブルを防ぐための 注意点 	5.ネット取引でのトラブルを防ぐための注意点を まとめよう 【ワーク】 ***** 各グループでテーマを選び、まとめた内容を発表。 ***** 【進め方】 4人グループで1つのテーマを担当させる。 1テーマを、複数のグループが担当し、まとめた内容の違いを相互に確認させる。 ※どのようにまとめるかは、使える時間や道具、生徒のスキルを考慮して教師で設定する。例えば以下のような方法がある。 - A3判以上の大きな用紙を使って、ポスター形式で自由にまとめさせる。 まとめた内容は教室や廊下にしばらく掲示しておく。 - パワーポイントスライド、Formなどを使い、チェックリストを作成させる。 オンライン上で他のグループがまとめた内容も見られるようにしておく。 ■テーマと解答例 Q.①信頼できる・信頼できない ネットショップを見分けるポイント 【解答例】 見分けるポイント例 - 実在する会社か - 住所（番地まで記載されているか） - 連絡先（問合せフォームやフリーメールのみではないか） - 責任者の名前 - 文章がおかしいか - 日本語が不自然ではないか - 支払方法が極端に限定されていないか Q.②ネットショップの返品・交換の条件、気を付けるべき点は？ 【解答例】 買う前に返品特約の内容を確認する - 返品特約の確認 返品特約がある場合の確認事項例 - 返品可能か（返品不可とあれば返品できない） - 受け取ってからいつまで可能か - 送料の負担 - 返金の方法 返品特約が無い場合 - 商品を受け取ってから8日以内であれば、送料を負担することで可能 《返品交換の条件》 例) 企業名 原則として商品到着から 30日以内の返品交換 以下の条件もあり 交換 ✕ 攜帶決済で注文した商品 在庫切れ など 返品 ✕ デジタルミュージック ゲーム & PCソフトダウンロード 商品 ↓ キャンセルできることも!!	契約のタイミングを理解し、責任ある契約の仕方について考えを深める。 グループにより違うテーマを振り分け、調べ学習を行う。 作成した資料を掲示するなど工夫する。 自分が利用している（知っている）通販サイトやフリマサイト、オークションサイトの利用ガイドを確認するよう促す。通信販売の業界団体のHPも情報がまとまっている。 学習で参考にするとよい資料 契約について理解しよう！ https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_education/public_awareness/teaching_material/material_010/pdf/teaching_material_1_171221_0003.pdf デジタルプラットフォームとの正しい付き合い方 https://www.caa.go.jp/notice/assets/future_caa_cms201_210420_02.pdf

2時限目

時間	教材・備考	学習内容とねらい	教師の支援
展開 ④ 20分	2-5 work まとめよう！ ネット取引トラブルを防ぐための注意点 Worksheet まとめよう！ ネット取引トラブルを防ぐための 注意点 まとめよう！ ネット取引トラブルを防ぐための 注意点	Q.③フリマサイトの取引で売主に禁止されている行為は？ 【解答例】 取引の禁止例 - 決められた決済方法以外での決済 - 商品を受け取る前に評価させる - マネーロンダリング - 現在手元に無いものの出品 - 商品の宛先を郵便局留めにする - 商品の手渡しを強要すること 企業名での禁止行為 - 商品の状態が写真と異なる - 手元に商品がない - うそ、偽装情報 - 他人の写真を盗用 - 外部サービスへの誘導 - 迷惑行為 - 不正利用 - 違法行為 - 差別につながる行為 - 企業名で用意された以外の決済方法を促す - 企業名で用意した宛先に送らない - マネーロンダリング - 配送の商品と着払い逆送 - 手渡しを強要 - 交換前に発送を促す - 宛先を郵便局留めにする Q.④フリマサイトで出品してはいけないものとは？ 【解答例】 出品してはいけない物の例 - 偽ブランド品 - 医薬品 - 拳銃など違法なもの - 金券・現金・クレジットカード Q.⑤フリマサイトで買って届いた商品が説明文と違う・壊れているとき、どう対応する？ 【解答例】 対応の例 - サイトのガイドに従って出品者と話し合いをする - サイトのガイドに従って返品の手続きをする 【指導のポイント】 - 取引相手の信頼性をいかに判断するか話し合うようにする - 返品・交換の条件をどこで確認するか話し合うようにする - CtoC取引の禁止行為や禁止出品物には何があるかを話し合うようにする - フリマサイトでトラブルがあったときの対処法について話し合うようにする	
	まとめ 5分		6.授業をふりかえる 電子商取引では、取引相手の信頼性を見極めること、返品や交換の条件をあらかじめ確認しておくこと、ルールを守った取引を行うことがトラブル防止のために大切である。

- 様々な支払方法
- キャッシュレス決済の仕組み
- 支払いのタイミングと信用取引
- 決済の注意点
- クレジットカード

■ 学習のねらい

様々な支払いの方法の特徴と仕組みを理解する。

導入では様々な支払方法の特徴と仕組みを理解し、決済方法にどんなものがあるかについて考えます。そして、クレジット決済とキャッシュレス決済についての理解を深め、最後に、決済手段の注意点について具体的な事例を基に考えます。

■ 使用する教材

基礎  様々な支払方法の特徴と仕組みを理解しよう	3-1 text 学習目標 支払方法の特徴と仕組みを理解しよう 授業の目標を確認します。 クレジットカードに関するトラブル事例を紹介しています。
基礎  あつちの国、あつちの国で使えないクレジットカード	3-2 movie クレジットカードの特徴と注意点とは？ クレジットカードの仕組みや支払方法、注意事項について学ぶ動画です。
基礎 Q. キャッシュレス決済にはどのような種類がありますか？ その特徴と注意点を考えてみましょう。	3-3 movie キャッシュレス決済の種類と仕組みを理解しよう キャッシュレス決済の種類と仕組みを学ぶ動画です。
基礎 説明しよう！自分ならどの決済をどう使う？ 	3-4 work 説明しよう！自分ならどの決済をどう使う？ キャッシュレス決済でのトラブル防止のための注意事項を書き出すワークです。

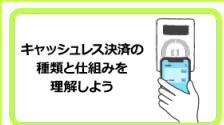
<授業アレンジ>

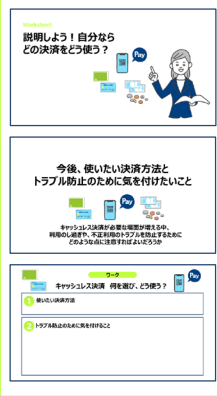
モデル授業案では、高等学校学習指導要領「家庭基礎」内容C(1)生活における経済の計画(2)消費行動と意思決定に対応した内容が学べるようになっていますが、あくまでも一例です。各教材を自由に組合せ、オリジナルの授業を組んでいただいたり、必要な教材のみを授業に取り入れるなど、自由に活用いただけます。

<発展> マークのついている教材・箇所は、発展的、応用的な内容です。授業時間に余裕がなければ省いても構いません。

■授業の流れ

時間	教材・備考	学習内容とねらい	教師の支援
導入 3分	3-1 text 学習目標 支払方法の特徴と仕組みを理解しよう	1.学習目標を理解する 【めあて】 現代社会における課題としてクレジットカードや電子マネーの普及などキャッシュレス化によって家計が大きく変化しており、情報が氾濫する中で慎重な意思決定が求められていることを具体的な事例や生活体験などを通して理解する。	教師が実際に使っている支払方法や近くの店舗で示されている支払方法を見せ、様々な支払方法があることを知らせるとよい。
		【指導のポイント】 多様化する支払方法、消費者信用・クレジットカードのそれぞれの特徴を理解させる。	後ほど行うワークについて、先に説明し、授業に関心を向けるとよい。
キャッシュレス決済（払い）の仕組みはどうなっているのでしょうか？ 何に注意したらよいのでしょうか？			
展開 ① 6分	3-2 movie クレジットカードの特徴と注意点とは？	2.クレジットカードの特徴と注意点とは？	多種多様な支払方法があるが、まずは支払いタイミングを意識することが重要であることを知らせる。
	 Q. クレジットカードを作ることができる年齢は次のうちどれか A : 18歳 つまり、消費者はクレジットカード会社へ借金をして代金を支払っていることになります。 リボルビング払い 利用代金の支払残高がなくなるまで毎月一定額をクレジットカード会社へ支払う方法 手軽に使えるからこそ、安全な利用は避け利用金額をこまめに確認するなど	①トラブルの事例 ②クイズ & 解説 Q : クレジットカードを作ることができる年齢は次のうちどれか A : 18歳 ③クレジットカードの仕組み ④クレジットカードの支払方法 ・一括払い ・分割払い ・リボ払い ⑤クレジットカードの注意点 ・利用し過ぎ ・不正利用 【指導のポイント】 クレジットカードの仕組みを理解し自分に合った使い方を考えさせる。	特に信用取引は注意しなくてはならない点が多いことを確認する。 デジタルコンテンツ「ローン利用をシミュレーションしよう」でリボ払いの金利が学べる。 動画を停止し、クイズの反応を確認したり、解説を加えながら進めると、生徒が内容に集中しやすい。

時間	教材・備考	学習内容とねらい	教師の支援
展開 ② 5分	3-3 movie キャッシュレス決済の種類と仕組みを理解しよう  キャッシュレス決済の種類と仕組みを理解しよう Q キャッシュレス決済には幾つかの種類があります。 * 次の空欄にあてはまる言葉を考えましょう。  キャッシュレス決済には、色々な種類があります。  消費生活センター等に相談しましょう 188 トラブルに巻き込まれたかもと感じたら	3.キャッシュレス決済の種類と仕組みを理解しよう 1) キャッシュレス決済とは ①クイズ＆解説 Q：キャッシュレス決済には幾つかの種類があります。 次の空欄にあてはまる言葉を考えましょう。 A：・プリペイド型電子マネー = (前) 払い ・デビットカード = (即時) 払い ・クレジットカード = (後) 払い 2) キャッシュレス決済の仕組み ①前払い ②即時払い ③後払い ④スマートフォンを用いた支払方法 3) キャッシュレス決済の注意点 ①支払いのタイミングはいつか ②最終的にどの口座から利用額が引き落とされるのか ③決済の仕組みが理解できているか ④利用明細をこまめに確認する 【指導のポイント】 キャッシュレス決済の仕組みを理解し自分に合った使い方を考えさせる。	クレジット決済は借金であり、慎重な利用が必要であることを知らせる。セキュリティ保護の重要性について伝える。 支払方法やタイミング、どの口座と紐付けられているのかを確認し、理解できるようにする。 前払い、即時払い、後払いのキャッシュレス決済の具体名を口頭で伝えると良い。 動画を停止し、クイズの反応を確認したり、解説を加えながら進めると、生徒が内容に集中しやすい。

時間	教材・備考	学習内容とならい	教師の支援
展開 ③ 20分	3-4 work 説明しよう！ 自分ならどの決済をどう使う？ 	4.説明しよう！自分ならどの決済をどう使う？ 【ワーク】***** キャッシュレス決済何を選び、どう使う？ トラブル防止のために気を付けたいこと。 ***** （参考）様々な決済（支払）方法 前払い プリペイド - 金券（図書カード、クオカード、商品券、ギフトカードなど） - プリペイドカード（ブランドプリペイド（国際ブランド付きプリペイドカード） など） - 電子ギフト券 - 交通系電子マネー - 流通系電子マネー 即時払い デビット - J-Debit：銀行のキャッシュカードをそのまま支払いに使うことができる。 - ブランドデビット（国際ブランド付きデビットカード）：銀行キャッシュカードに国際ブランドを付帯すると、世界中のクレジットカード加盟店で使える。 - 銀行Pay決済(二次元コード決済) 後払い クレジット - クレジットカード - 国際ブランド付きクレジットカード - 非接触型クレジットカード - 後払い型電子マネー 複合的 プリペイドの電子マネーをクレジットカードやデビットカードから入金するなど、入金元に登録する手段によって支払いタイミングが異なる。 スマートフォン標準決済：スマホを使った非接触型の決済サービスやオンライン決済のために、複数の決済方法を登録する。 スマホキャリア決済：購入代金を月々の携帯電話の通信料とまとめて決済する。二次元コード決済。 現金払いにしたいと考える生徒も多いが、通販の支払いなどで、キャッシュレス決済（キャッシュレス払い）が必要な場面が増えてくる。 その場合に、多様なキャッシュレス決済方法から選ぶとすれば、何にするかを考え、意思決定する。 資料や教科書を見たり、ネット検索したりして、自分の使いたい決済方法の利点と欠点を調べる。 利用し過ぎや、不正利用を防止するために、どのような点に注意すればよいか、気を付けることを3点にまとめる。 【指導のポイント】 決済手段の注意点を理解した上で、自分の生活にどのように取り入れるかを考え、利用する手段を意思決定させる。	現金以外の支払方法について、仕組みと特徴を理解させる。 信用取引の特徴と留意点について理解させる。利用し過ぎを防止するために必要な方法（例：前払い方式、メール等支払履歴、家計簿アプリ等の有効活用）を考えさせる。 ※進め方のアイディア ・個人ワークで行い、記入した内容をペアで紹介し合う ・ワークシートをpdfファイルに変換し、ICT支援ツールを活用してクラス全員に配布し、指名した生徒のワークシートの内容を全体で共有する 先生のカードや近くの店舗で示されている支払方法を見せるとよい。 ※進め方のアイディア ・個人ワークで行い、記入した内容をペアで紹介し合う。 ・ワークシートをPDFファイルに変換し、ICT支援ツールを活用してクラス全員に配布し、指名した生徒のワークシートの内容を全体で共有する。
まとめ 5分		5.授業をふりかえる 利用する決済方法の仕組みの概要を理解し、信頼性が高く、自身の生活で出番が多いものに数を絞って使うこと、使った金額を把握しながら使うことが大切である。	支払方法の多様化が進んでいるが、どのような方法であっても、お金の流れ（支払いの仕組み）をしっかりと理解し、自分の生活に合わせた方法を数点に絞って利用することが大切であることを確認する。

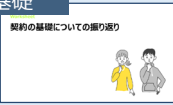
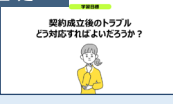
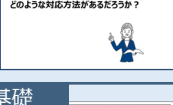
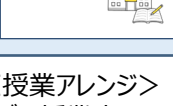
- 消費者を保護するための制度
- 未成年者取消権、クーリング・オフ制度、中途解約
- トラブル時の対応方法
- 消費生活センターについて

■ 学習のねらい

契約に問題が生じた場合の救済方法を知る。

導入では契約の基礎をクイズ形式で振り返りを行い、契約成立後に問題が生じた場合の対応について考えます。そして、消費者を保護するための制度を理解し、消費者トラブルから消費者を守る仕組みを学び、トラブル事例の対応方法を考え、動画で消費者センターの役割と相談の仕方について理解します。最後に、テキストを用いて消費者トラブルのない社会について考えます。

■ 使用する教材

基礎 	4-1 work 振り返ろう！契約の基礎知識？ 契約の基礎に関する知識をクイズ形式で確認し、知識の定着度を確認するワークです。
基礎 	4-2 text 学習目標 契約後に生じた問題、どう対応すればよいだろうか？ 授業の目標を確認します。契約は「やめられないのが原則」ですが、トラブルが起きた際は消費者を守るための様々な制度があることを学びます。
基礎 	4-3 movie 消費者を保護する制度の内容を知ろう 消費者を保護する制度である「未成年者取消権」「クーリング・オフ制度」「中途解約」やその他の制度を紹介する動画です。
基礎 	4-4 text トラブルから消費者を守る制度を理解しよう 契約と製品事故にまつわるトラブルから消費者を保護する制度として、未成年者取消権、消費者契約法、クーリング・オフ制度、製造物責任法などを学びます。
基礎 	4-5 work 考えよう！トラブル事例の対応方法？【前半】 5つの消費者トラブルの事例に対して、どのような制度を使って解決することができるかを考えるワークです。
基礎 	4-6 movie 消費生活センターの役割と相談の仕方を知ろう 消費トラブルにあった際に相談できる消費生活センターの役割と利用方法を説明し、消費生活センターに寄せられる相談の事例を紹介する動画です。
基礎 	4-5 work 考えよう！トラブル事例の対応方法？【後半】 消費生活センターに相談するときどのような内容を伝えたらよいか、相談メモを書いてみるワークです。
発展 	4-7 text 理解を深める自習教材～消費者トラブルのない社会に向けて～ 消費者トラブル防止のために 消費者団体訴訟制度や公益通報者保護制度について学びます。

<授業アレンジ>

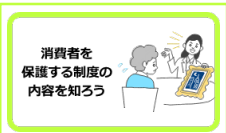
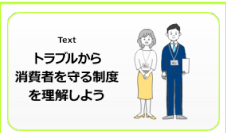
モデル授業案では、高等学校学習指導要領「家庭基礎」内容C(1)生活における経済の計画(2)消費行動と意思決定に対応した内容が学べるようになっていますが、あくまでも一例です。各教材を自由に組合せ、オリジナルの授業を組んでいただいたり、必要な教材のみを授業に取り入れるなど、自由に活用いただけます。

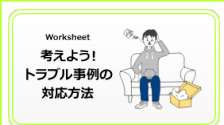
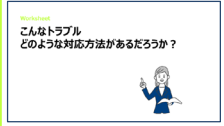
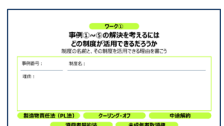
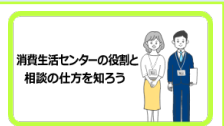
<発展> マークのついている教材・箇所は、発展的、応用的な内容です。授業時間に余裕がなければ省いても構いません。

■授業の流れ

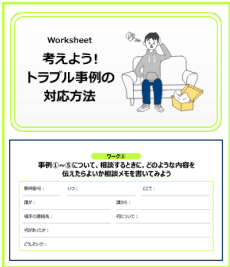
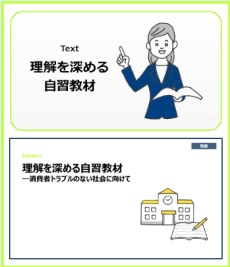
時間	教材・備考	学習内容とねらい	教師の支援
導入 8分	4-1 work 振り返ろう！ 契約の基礎知識	1.学習目標を理解する 1) 契約の基礎についての振り返り 【めあて】 消費者被害の防止や救済について具体的に理解する。 消費者と事業者の間には情報量などに格差があり、消費者が自立した消費行動をとるためには、様々な支援や仕組みが必要であることを理解する。 【進め方】 「契約をやめられる／やめられない」場合について考えさせる。 →ネットショップ利用の注意点は何かを発表させる。 【ワーク】***** クイズ4問（3分）契約の基礎に関する知識を確認。 ***** 【クイズと解答】 Q.①店で買物をするとき、契約が成立するのはいつ？ 解答：③店員が「はい、かしこまりました」と言ったとき 消費者と事業者とが、申込と承諾の意思の一致によって契約は成立する。 つまり、口約束でも契約は成立する。 契約書や印鑑・サインは証拠を残すためのもの。 Q.②店で商品を買ったが、使う前に不要になった、解約できる？ 解答：①解約できない 契約は「法的な責任が生じる約束」なので拘束力がある。 Q.③インターネットショッピングで、契約が成立するのはいつ？ 解答：②注文を承諾したという通知が到達したとき インターネット通販の場合は消費者が申込ボタンをクリックし、その後事業者から承諾の通知が来た時点で契約が成立する。お互いに権利と義務が発生しているため、消費者の都合で一方的にやめることはできない。ネットショップをするときは、キャンセルの方法などと併せて契約成立後の返品条件についても利用規約を確認する。 ※フリマサイトなどの個人間での取引では、解約成立のタイミングが各サイトの利用規約等によって異なる。 Q.④インターネットショップで商品を買ったが、イメージと違った、解約できる？ 解答：③返品特約に書かれている内容による 法律では、通信販売を行う事業者がサイトごとに「返品特約」として返品品のルールを掲載することができるため、消費者は返品が可能かどうかについてサイトごとに確認する必要がある。また、返品特約が記載されていない場合は、商品の到着後8日間以内であれば、送料自己負担で返品することができる。 ネットショッピングは、顔の見えない相手との取引なので、ショップ名だけではなく、住所、電話番号についても確認する。トラブルに遭ったときのために、メールや確認画面を保存し、後から確認できるようにしておくことも大切である。	クイズ形式で今までの学習内容を振り返り、定着度合いを確認する。 下を向いて、周囲が見えないようにして、正答と思う選択肢で挙手する、Webフォームを利用して投票するなど、しっかりと考えて選択肢を選ばせるようにしたい。 後ほど行うワークについて、先に説明し、授業に関心を向けるとよい。
	4-2 text 学習目標 契約後に生じた問題、 どう対応すればよい だろうか？	2) 契約成立後に問題が生じた場合、どう対応すればよいだろうか？（2分） ①やめられないのが原則。 ②消費者が事前に知りうる情報には限りがあり、事業者より不利な立場にある。 ③消費者を守るための様々な制度がある 【指導のポイント】 様々な制度で対応できることを理解させる。 ・契約前には分からず、後から気付いて契約をやめたいことがある。 ・成立した契約は原則やめることができないが、問題がある場合は成立後の契約を白紙に戻したり、途中でやめたりできる制度がある。 ・制度の内容を細かく覚えさせるのではなく、消費者が一方的に不利な状況に置かれた契約は、諦めたり泣き寝入りしたりしないことが重要であることを伝える。 ・後から出てくるように、消費生活センターに相談させる。	「こんなはずじゃなかった」と後から分かり、問題が生じることがある。このようにときに、諦めるのではなく、消費者を保護する制度の利用を考えることが重要であることを伝える。 後で実施するワークを先に紹介しておくのもよい。

契約後トラブルが起きたら、どう対応したらよいのでしょうか？

時間	教材・備考	学習内容とねらい	教師の支援
展開 ① 7分	4-3 movie 消費者を保護する制度の内容を知ろう  	2.消費者を保護する制度を理解する ※動画とスライドの内容が重複しているため、どちらか一方を使ったり、スライドは資料として参照させたりするとよい。 1) 消費者を保護するための様々な制度 ①トラブル事例 ②未成年者取消権とは ③クーリング・オフ制度とは ④中途解約とは ⑤その他の制度 【指導のポイント】 困った時の救済制度を理解させる。 困った時は消費者ホットライン188（いやや） 又は近くの消費生活センターに相談する。	成立後の契約を白紙に戻したり、途中でやめたりできる方法は、契約の内容に応じて異なることを知らせる。 未成年・成年の法律上の責任の違い（未成年者取消権の有無）と、消費者を保護する制度について理解させる。 トラブル救済には複数の方法があること、公的機関での相談が重要であることを伝える。 動画を停止し、クイズの反応を確認したり、解説を加えながら進めると、生徒が内容に集中しやすい。
	4-4 text トラブルから消費者を守る制度を理解しよう  	2) トラブルから消費者を守る制度を理解しよう 〇めあて 消費者契約法など被害救済のための基本的な法規のほか、表示偽装や製品事故などを取り上げ、安全で豊かな消費生活を送るための制度についても理解できるようにする。 ①契約にまつわるトラブルから消費者を保護する制度 ・未成年者取消権 ・クーリング・オフ制度 ・消費者契約法 ②製品事故にまつわるトラブルから消費者を保護する制度 ・製造物責任法 PL法 ③消費者が注意する製品事故の予防について ・安全性が考えられた製品であることを示すマーク ・回収・点検・修理制度 ・トラブルが起きたときは ④消費者庁の役割 ・消費生活センター ・消費者ホットライン188（いやや） ⑤消費者の「権利」と「責任」（役割） 【指導のポイント】 成立した契約は原則やめることができないが、成立後の契約を白紙に戻したり途中でやめたりできる制度があることを知らせる。 製品の安全性確保の取組を理解し、安全確保のために消費者がとるべき行動を理解させる。	

時間	教材・備考	学習内容とねらい	教師の支援
展開 ③ 15分	4-5 work 考えよう！ トラブル事例の対応方法【前半】    	3.トラブル事例の対応方法を考える 様々な問題に対し、消費者を保護するためにどのような制度があるか考えよう 【めあて】 問題解決的な学習を通して消費者問題が生じる背景や守られるべき消費者の権利について理解できるようにする。 【ワーク1】***** 事例①～⑤について、解決を考えるには、どの制度が活用できるだろうか。 制度の名前と、その制度を活用できる理由を書こう。 ***** 【事例と解答】 Q. ① ネットショップで買ったスニーカーが似合わなかったので返品したい 解答：未成年者取消権 保護者の同意を得ず未成年がした契約であり、おごつかいの範囲を超えた金額であるため未成年者取消をすることができる。 ※成年の場合は取消できません。 Q. ② 5日前に契約した投資ソフトを返品したい 解答：クーリング・オフ アポイントメントセールスなのでクーリング・オフできる。 これは特定商取引法のアポイントメントセールスに該当し、契約して5日目なのでクーリング・オフすることができる。 Q. ③ 2週間前に契約した、6回セットの脱毛エステをやめたい 解答：中途解約（特定商取引法の継続的役務提供） 契約をして2週間経っているためクーリング・オフはできないが、継続的役務提供に該当するため、既に受けたサービスの代金と定められた損害賠償を支払うことで中途解約できる。 Q. ④ 20万円の就職セミナーを契約したが、支払うのは無理なので、やめたい 解答：消費者契約法 事業者が、社会経験の乏しく就活について不安を抱く消費者に対し、そのことを知りながら不安をあおり、自由な判断ができない状況に陥らせて望まぬ契約をさせているので不安をおおる告知に該当するため消費者契約法で取消できる Q. ⑤ ネット通販で購入したモバイルバッテリーが発火した。弁償してほしい 解答：製造物責任法（PL法） 製品による事故が発生した際、欠陥により拡大損害が発生した場合には、製造物責任法（PL法）等によって損害賠償を求めることができる。 事故品や損害の状況は写真を撮るなどして保存しておく。 医師の治療を受けた場合は、領収書や診断書を残しておく。 【保護制度】 ・ 製造物責任法（PL法） ・ クーリング・オフ ・ 中途解約 ・ 消費者契約法 ・ 未成年者取消法 【指導のポイント】 様々な方法でトラブル救済の可能性があるため、適切なルートで相談することを知らせる。 未成年・成年の法律上の責任の違い（未成年者取消権の有無）と、消費者を保護する制度について理解させる。	様々なトラブル事例について、どんな解決方法があるかを2人1組などで考えさせる。 ワークシートをPDFファイルに変換し、ICT支援ツールを活用してクラス全員に配布すると、指名した生徒のワークシートの内容を全体で共有できる。
展開 ④ 5分	4-6 movie 消費生活センターの役割と相談の仕方を知ろう  	4.消費生活センターの役割と相談の仕方を理解する 1) 消費生活センターの役割を理解する 2) 消費生活センターへの相談の仕方を理解する 【指導のポイント】 消費者トラブルで困った場合は、一人で悩まず消費者ホットライン188（いやや）に相談させる。	トラブルに遭った場合、消費生活センターに相談することが確実であり、悪質商法の情報を共有することにもつながることを知らせる。 動画を停止し、クイズの反応を確認したり、解説を加えながら進めると、生徒が内容に集中しやすい。

4時限目

時間	教材・備考	学習内容とねらい	教師の支援
展開 ⑤ 10分	4-5 work 考えよう！ トラブル事例の対応方法【後半】 	5.トラブル事例を相談メモに書いてみよう トラブル内容をがた確に伝わるようにメモにまとめる 【ワーク2】***** 事例①～⑤について、相談するとき、どのような内容を伝えたらよいか相談メモを書いてみよう ***** 【進め方】 ワーク1で考えた①～⑤のトラブル事例を消費生活センターで相談する場合、事例の内容をどのように整理しておくといだろうか。5W1Hを意識して、内容ががた確に伝わるようにメモにまとめさせる。 5つの事例を割り振り、1人あたり1つの事例を担当するようにする。 - 事例ごとに模範解答例をクラスで共有する。 - ワークシートをPDFファイルに変換し、ICT支援ツールを活用してクラス全員に配布すると、指名した生徒のワークシートの内容をクラス全体で共有しやすい。	消費者を保護する制度は複雑であり制度も新しなるため、困ったときは消費生活センターで専門家に相談することが大事であることを伝える。
発展	4-7 text 理解を深める自習教材 ～消費者トラブルのない社会に向けて～ 	6.理解を深める自習教材＜発展＞ 消費者トラブルのない社会のための救済制度 ①消費者トラブル防止のために1 - 消費者団体訴訟制度 - 差止請求 - 不当な勧誘の例 - 不当な契約条項の例 - 不当な表示の例 - 被害回復 - 被害回復の対象となる財産的被害の例 ②消費者トラブル防止のために2 - 公益通報者保護法 - 公益通報によって明らかになった例 ③消費者市民社会の構築 【指導のポイント】 消費者の情報発信が、消費者トラブルのない社会を創り上げることにつながることを知らせる。	消費者団体訴訟制度や、公益通報者保護法は、消費者被害の未然防止、拡大防止を目指した制度であることを理解させる。
まとめ 5分		7.授業をふりかえる 一度結んだ契約で被害が生じた場合は、適用できる消費者を保護する制度がある。泣き寝入りせず、消費生活センターに相談し、アドバイスを受けることが大切である。	

- 収入と支出
- 生活設計・マネープランシート
- 家計の管理方法
- 保険の役割
- ローンの仕組み・メリット・デメリット

■学習のねらい

限りあるお金を、人生で最大限に有効活用する方法を考える。

導入では、限りあるお金を、人生で最大限に活用するために、どうすればよいかを学びます。収入と支出、家計の管理方法や経済的なリスクについてテキストで学び、ワークシートを活用して実際にマネープランを設計し、生活設計について考えます。最後にマネープランを通して気付いたことをまとめます。ワークシートの代わりにアプリ「今後の10年のライフプランを体験しよう」を活用することも可能です。また「ローン利用をシミュレーションしよう」、「クイズで確認 消費生活の基礎知識」などを取り入れた授業にアレンジすることもできます。

■使用する教材

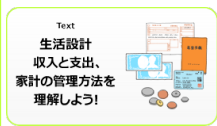
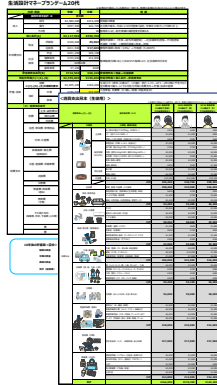
基礎 	5-1 text 学習目標 限りあるお金を、人生で最大限に活用するには？ 授業の目標を確認します。 「稼ぐ力」と「お金を大切に管理する力」が消費生活の支えになることを学びます。
基礎 	5-2 text 生活設計 収入と支出、家計の管理方法を理解しよう 家計管理（消費支出と非消費支出、貯蓄）と金融商品について学びます。
基礎 	5-3 work マネープランシートを作成し、生活設計を学ぼう！ マネープランシートを使って収入と貯蓄、消費支出の項目を埋め、生活設計を学ぶワークです。
基礎・発展 	5-4 text 保険とローンを理解しよう～30代以降の生活設計～ 保険の役割（仕組みや契約するときの注意点）やローンの仕組みとメリット・デメリットについて学びます。
発展 	5-5 app ローン利用をシミュレーションしよう 長期的な視点を持って、自分の収入に見合ったライフプランを考えるデジタルコンテンツです。
基礎 	5-6 work 学習のまとめ 生涯を見通した経済の管理の学習で扱う、収入・非消費支出・消費支出・貯蓄・ローンや保険について、気付いたことをまとめるワークです。

<授業アレンジ>

モデル授業案では、高等学校学習指導要領「家庭基礎」内容C(1)生活における経済の計画(2)消費行動と意思決定に対応した内容が学べるようになっていますが、あくまでも一例です。各教材を自由に組合せ、オリジナルの授業を組んでいただいたり、必要な教材のみを授業に取り入れるなど、自由に活用いただけます。

<発展> マークのついている教材・箇所は、発展的、応用的な内容です。授業時間に余裕がなければ省いても構いません。

■授業の流れ

時間	教材・備考	学習内容とねらい	教師の支援
導入 5分	5-1 text 学習目標 限りあるお金を、人生で最大限に活用するには？  学習目標 5 限りあるお金を有効に活用するためには、どうすればよいだろうか？	1.学習目標を理解する 【めあて】 収支バランスの重要性とともに、リスク管理も踏まえた家計管理の基本について理解する。 資産形成やリスク管理も踏まえた、生涯を見通した経済計画を考えることができる。 【進め方】 振り返りシートへ、気付いたことや、学んだことを整理し記入させる。 【指導のポイント】 限りあるお金を有効に活用できるよう、経済計画の重要性を理解し、生涯を見通した生活における経済の管理の在り方や、主体的な資金管理について考えることができるようにさせる。 「稼ぐ力」と「お金を大切に管理する力」は車の両輪。 経済的自立に向けて、両方の力をつけていこう。	稼ぐ力と管理する力の両輪が消費生活の支えになることを知らせる。 ライフステージによる支出の変化や人生の三大出費、リスクへの備えを理解し、生涯にわたって健全な経済生活を営めるように指導する。 後ほど行うワークについて、先に説明し、授業に関心を向けるとよい。
	限りあるお金を有効に活用するためには、どうしたら良いのでしょうか？		
展開 ① 22分	5-2 text 生活設計 収入と支出、家計の管理方法を理解しよう  Text 生活設計 収入と支出、 家計の管理方法を 理解しよう！ Lesson マネープランシートを作成しながら 収入と支出、家計の管理方法を学ぼう！	2.収入と支出、家計の管理方法を学ぶ 1）マネープランシートを作成しながら、収入と支出、家計の管理方法を学ぼう！ 【めあて】 収入と支出のバランス、人生の三大出費やリスクへの備え、ライフステージによる支出の変化を理解し、生涯にわたって健全な経済生活を営む方法を考えられるようになる。 収入と支出 ①収入をつかむ ②非消費支出を確認し、手取り収入をつかむ ③貯蓄・投資額を決める ・金融商品の特徴、関節金融と直接金融 ・金融商品で注意すること、リターンとリスク ・資産形成 まとめ ④消費支出の内訳を決める 【指導のポイント】 どのような職業に就き、どの程度の収入を得たいか考えさせる。	どのような職業に就き、どの程度の収入を得たいかを考えさせる。 家計における支出の種類や貯蓄について知り、自分の生活と経済との関わりについて理解させる。
	5-3 work マネープランシートを作成し、生活設計を学ぼう！  Worksheet マネープラン シートを制作し 生活設計を学ぼう！ 	2）生活設計・マネープランシート 【進め方】 ①教師はパワーポイントスライドで解説し、生徒は解説を聞きながらエクセル形式のマネープランシートを端末上で操作させる。 ②マネープランシートのうち、黄色のセルは選択や入力が必要な箇所となる。 ・【雇用形態】を選択させる。 収入が決定する。 収入に応じて非消費支出が差し引かれ、可処分所得が決定する。 ・【貯蓄額・投資】に充てる金額を入力させる。 中期・長期の「貯蓄・投資」に入力した金額は、最下段の「10年後の貯蓄額＜目安＞」に反映される。 ・短期の「貯蓄・投資」の欄は、消費支出に回せる額の残高が表示されるようになっている。 ・マネープランシートを作成し、生活設計を学ぼう！資料で、全国の20代の消費支出の金額を確認しながら、自分のシートの【消費支出】項目を埋めていくようにさせる。 使えるお金（消費支出）の範囲で、どんな生活ができるかいろいろ試させる。 【ワーク】***** 生活設計・マネープランシート マネープラン作成を通じて、人生における収入と支出の関係への気付きを考察 ***** <補足> 資料内の消費支出の数値は、各費目への支出が全くない人も合わせた平均値である。 例えば「交通・通信、自動車関連費」は6,000～7,000円となっているが、自動車を所有する場合、年間の維持費（税金、自賠責・任意保険、駐車場代、ガソリン代、車検代）は、軽自動車で330,000円、コンパクトカーで390,000円、ミニバンで450,000円程度かかると思われる。	マネープラン作成を通して、人生における収入と支出の関係に気付き、その関係について考えさせる。 マネープランシートの使い方について ・貯蓄・投資を「短期、中期、長期」の貯蓄額を同じにしておくと、10年後の違いがわかりやすい。 ・雇用形態を、はじめは正社員に設定し、その後非正社員にして結果を比べると、節約すべき箇所を考えさせることができる。 デジタルコンテンツ「今後の10年のライフプランを体験しよう」でも同様の学習が可能。

時間	教材・備考	学習内容とねらい	教師の支援
展開 ② 13分	5-4 text 保険とローンを理解しよう ～30代以降の生活設計～ Text 保険とローンを理解しよう Lesson 保険とローンを理解しよう～30代以降の生活設計～ ①経済的なリスクへの備えー保険の役割	3.保険とローンを理解しよう ～30代以降の生活設計～ 【めあて】 生涯を見通した経済計画を立てるには、事故や病気、失業などのリスクへの対応策も必要であることについて理解する。 1）保険の役割 ①保健の種類、仕組み ②民間保険の役割、契約するときの注意点 2）ローンの仕組みとメリット/デメリット ①ローンとはつまり「借金」のこと ②貯蓄したお金で住宅を購入するには？ ③ローンのメリット、デメリット ④ローンの基本を確認しよう ⑤利息の特徴、複利による利息の増加 ⑥金利の高さと利息の違い、様々なローンと金利の違い、元本の大きさと返済額 ⑦元利均等払い・元金均等払いについて <発展> 【指導のポイント】 生涯を見通した経済計画を立てるには、事故や病気、失業などのリスクへの対応策も必要であることについて理解させる。 また、ローンの仕組みとメリット・デメリットを理解させる。	ローンの計算は複雑であるが、基本は単純な掛け算であることを理解させる。耳慣れない用語も多く出てくるため、敬遠されないよう、平易に基本をおさえることを意識する。
	5-5 app ローン利用をシミュレーションしよう ローン利用をシミュレーションしよう	4.ローンシミュレータ<発展> マイホームやクレジットなどの各種ローンをシミュレーションで体験しよう。 代表的なローンを取り上げ、利用額や返済期間に応じて、どのように返済額が変わるのかをシミュレーションすることができる。具体的な金額を知ること、計画的な利用の大切さを理解する。	
まとめ 8分	5-6 work Worksheet 学習のまとめ Worksheet 学習のまとめ ワークシート 20歳代のマネープランを作成して、どのようなことに気付きましたか？各項目について記入しよう ① 収入 ② 非消費支出 ③ 消費支出 ④ 貯蓄 ⑤ ローンや保険	5.学習のまとめ 【進め方】 授業で各自が気付いたことをワークシートへ項目別に記入し、内容について発表させる。振り返りシートへ、気付いたことや学んだことを整理し記入させる。 【ワーク】***** 20歳代のマネープランを作成して、どのようなことに気付きましたか？各項目について記入しよう（8分） 授業で各自が気付いたことを記入し、内容について発表する。 ***** 【回答例】 ①収入 正社員とバイトでは年間の収入に差があると分かった。 ②非消費支出 収入が多いほど増え、思ったよりも多くの額が差し引かれる。 ③消費支出 節約次第で減らすことができる。 ④貯蓄 収入の面が影響する。 収入が多いほど余ったお金を貯蓄にまわせる。 ⑤ローンや保険 収入と相談する必要がある、収入減により払えなくなるリスクがある。 【指導のポイント】 ●机間指導により、書くことが苦手な生徒に助言し、発表者を選ぶ。 ●プランの内容を踏まえて具体的に考え、自分の意見を持っているか（思考・判断） 消費者契約で「あれ、どうして？おかしい」と思ったら、消費生活センターに相談しよう。 消費者ホットライン 188（いやや！） ※局番なし 日本全国の身近な消費生活相談窓口を案内する。	ワークシートのスライドをPDF形式に変換してICT活用授業支援アプリで配布すると、生徒同士の意見の共有をリアルタイムで行うことができる。 主体的な人生を送るためには、生活設計が大切。収入や時間は限りを意識し、お金を使う時には優先順位を付けて選択する必要があることを知らせる。 今まで学習したことを踏まえて、様々な支払方法のメリット・デメリットを理解し活用しながら、日常の買物も契約であることを意識して、消費者として適切な行動を取れるように指導する。

まとめ

学習の振り返りとまとめ



本教材で学んできたことを、クイズやライフプラン体験アプリで振り返る。

■ 学習のねらい

ライフステージに応じた消費生活の変化を確認するとともに、知識の定着を図る。

■ 使用する教材

発展		App 02 クイズで確認 消費生活の基礎知識 デジタル社会の消費生活の教材全般で学んだことを、クイズ形式で理解度を確認するデジタルコンテンツです。
発展		App 05 今後の10年のライフプランを体験しよう マイホーム、教育、マイカー、クレジットカード、カードローン（リボ払い）について、借入金額や返済期間などの条件を変えて、毎月の支払いや合計の返済額等を、シミュレーションできるデジタルコンテンツです。

まとめ

■ 授業の流れ

時間	教材・備考	学習内容とねらい	教師の支援
	5-7 app クイズで確認 消費生活の基礎知識 	1.消費生活の基礎知識に関するクイズ＜発展＞ 本教材で学んできたことを、クイズで振り返り、知識の定着を確認する。 Q 1.商品やサービスを選択する場面において、よりよい意思決定をするために、実践したほうが良いことは何？ A 知っているメーカーやサービスを選ぶ B 直感を信じて決定する C 著名人が紹介しているものを選ぶ D 社会への貢献なども含め多面的な比較と検討を行う 正解はD 使う頻度や場所、費用対効果など自分の生活を軸として、いろいろな角度から比較と検討しよう。特に耐久財や継続サービスは、人に勧められたなどの理由で安易に意思決定すると、自分の生活に合わず不満が生じやすいので注意しよう。 また、フェアトレード認証ラベルなどのある商品を購入する、必要な分だけ食品を購入する（食品ロス削減）ことで、環境・社会に貢献できる。 Q 2.「エシカル消費」の例として適切でないものはどれでしょう。 A 環境に配慮した製品を選ぶ B 食品ロス削減に取り組む C できるだけ安価な商品を選ぶ D フェアトレードの商品を選ぶ 正解はC エシカル消費は、SDGs（持続可能な開発目標）のうち、「つくる責任、つかう責任」に関わる取組である。人・社会や地域、環境への配慮など、日々の買物の際にも、課題の解決を意識した行動しよう。特に食品ロスの削減は、2030年に食品ロス量を2000年比半減する目標を達成させる為、みんなで取り組む必要がある。	今まで学習したことを踏まえて、様々な支払方法のメリット・デメリットを理解し活用しながら、日常の買物も契約であることを意識して、消費者として適切な行動を取れるように指導する。 消費生活の授業を始める前に知識を確認したり、5 限目までの授業を終えた後の知識理解度を確認するクイズとして使える。

まとめ

時間	教材・備考	学習内容とねらい	教師の支援
	5-7 app クイズで確認 消費生活の基礎知識 	Q 3.合理的根拠が無い効果をうたう広告などの不当な表示から消費者の利益を保護する法律を何という？ A 消費者契約法 B 景品表示法 C 製造物責任法 D 個人情報保護法 正解はB 景品表示法は、商品・サービスの品質、内容、価格等を偽って表示を行うことを厳しく規制するとともに、過大な景品類の提供を防ぐために景品類の最高額等を制限し、消費者がよりよい商品・サービスを自主的かつ合理的に選べる環境を整備する法律である。 Q 4.ターゲティング広告の特徴として最も適切なものはどれ？ A 利用者のデータを元に、興味関心に近い広告を配信する B 商品の中で高額なものを広告配信する C 企業のおすすめ品を広告配信する D ブログなど自分のホームページで広告主の商品を宣伝する 正解はA ターゲティング広告は、属性・位置・履歴といったデジタルデータに基づき、利用者の興味や関心に近い広告を配信する方法である。あなたの興味関心に近い広告が表示されますが、その広告は必ずしも利用者が必要としている商品やサービスのものとは言い切れず、中には悪質な広告も混ざっていることに注意しよう。 Q 5.私たちの生活は、多くの契約によって成立しています。「契約」でないものはどれ？ A ビザの宅配サービスを注文する B 友人と映画を見に行く約束をする C スマートフォンで音楽をダウンロードする D 電車に乗る 正解はB 契約とは、守ることを法律上強制される約束である。あまり意識することは無いかもしれませんが、私たちは暮らしの中で様々な契約を交わしている。 Q 6.契約をするときのポイントとして、適切でないものはなに？ A 契約は当事者間の自由な意思によって行われる B どのように契約するかは当事者間で決められる C 契約書の無い口頭でのやりとりでも契約は成立する D 成立した契約を一方的に解除することができる 正解はD 契約には、決められた一定のルールがある。契約の過程や内容に問題がなければ、一旦成立した契約を一方的に解除することは原則としてできない。契約前に慎重に検討して、責任ある意思決定をすることが重要である。 Q 7.一般的なネットショッピングにおける契約の成立はいつでしょうか？ A 決済を済ませたとき B 注文確定ボタンを押したとき C 注文を受け付けたという承諾メールが届いたとき D 商品が届いたとき 正解はC 消費者と事業者が互いに契約内容について合意すれば契約は成立する。注文を確定する前に、商品に間違いはないか、本当に必要なものであるかなどを確認しておくことが大切である。 また、フリマサイトなどの個人間での取引では各サイトの利用規約等によって異なるため、キャンセルの方法などと一緒に確認しよう。	消費生活の授業を始める前に知識を確認したり、5 限目までの授業を終えた後の知識理解度を確認するクイズとして使える。

まとめ

時間	教材・備考	学習内容とねらい	教師の支援
	5-7 app クイズで確認 消費生活の基礎知識 	Q8. クレジットカードや電子マネーなど、現金を使わない支払方法をなんというでしょう？ A キャッシュレス決済 B 小切手・手形 C 掛取引 D 現金払い 正解はA キャッシュレス決済の支払時期には前払い、即時払い、後払いがある。利用することでポイントなど特典が付与されるケースがある一方で、利用状況が把握しにくいいため、支払履歴を管理することが大切である。 Q9. 支払いをカード会社に立替えてもらい、代金を後払いする仕組みのキャッシュレス決済をなんという？ A プリペイドカード B クレジットカード C デビットカード D 電子マネー 正解はB クレジットカードでの支払いは、代金を一時的にカード会社に立て替えてもらう仕組みで、いわば「借金」になる。特徴としては、お金を使っている実感が無く、使い過ぎてしまう可能性がある。カード会社への支払日に口座残高が不足しないよう注意が必要である。また、支払方法の違いによって返済回数も異なる。 Q10. クレジットカードの支払方法のうち、一つ一つの商品の残高が分かりにくい支払方法はどれ？ A ボーナス 1 回払い B リボルビング払い（リボ払い） C 36回払い D ボーナス併用払い 正解はB リボ払いは、月々の支払額を一定の金額に固定し、金利とともに返済する仕組みである。毎月の支払がほぼ一定なので家計管理が容易ですが、今どの商品の支払をしているのか、いつ支払い終わるのが分かりにくく、返済が長期化する場合がある。支払期間が長くなりかねるので、その分利息がかさみ、支払総額も増える傾向がある。 Q11. 「返品不可」と記載があっても、返品できるケースはどれ？ A 注文と違う商品が届いた B デザインが好きではなかった C 間違ったサイズを注文した D 届いたときには不要になった 正解はA 「返品不可」と書いてあっても、注文と違う商品や不良品が届いた場合は返品することができる。事業者は、きちんと契約内容を守るように連絡をとり、契約を守ることができなければ支払った代金の返金を求めることができる。ただし、事業者と連絡が取れなくなるケースなどもあるので注意が必要である。 Q12. 消費者を守る制度として、適切でないものはどれ？ A 製造物責任法 B 消費者契約法 C リユース制度 D クーリング・オフ制度 正解はC 製造物責任法では、製造業者等に対し、製造物の欠陥が原因で生じた拡大損害についての損害賠償責任を定められている。消費者契約法は消費者契約について、不当な勧誘による契約の取消しと不当な契約条項の無効等を定めている。クーリング・オフ制度は訪問販売などの取引で契約した内容を一定の期間内であれば無条件で契約解除できる制度である。	消費生活の授業を始める前に知識を確認したり、5 限目までの授業を終えた後の知識理解度を確認するクイズとして使える。

まとめ

時間	教材・備考	学習内容とねらい	教師の支援
	5-7 app クイズで確認 消費生活の基礎知識 	Q13.消費者ホットラインの電話番号はどれ？ A 188 B 180 C 184 D 187 正解はA 消費者ホットライン「188（いやや）」は、近くの消費生活センター等の相談窓口を案内する全国共通の3桁の電話番号である。消費生活センターでは、商品の購入やサービスの利用に関する契約トラブルなど消費生活全般に関する消費者からの相談を専門の相談員が受け付け、公正な立場で解決にあたっている。 Q14.金融商品のうち、一般的に当初の購入金額を下回る「リスクが少ない」と言われているものはどれ？ A 定期預金 B 外貨預金 C 投信信託 D 株式 正解はA 定期預金はリスクが低い金融商品と言われ、着実に蓄える事に向く。ただし、金利が低く、収益性は低いことが特徴である。一方、投信や株式などの金融商品は、高い収益を上げる可能性があるものの、購入当初の金額を下回るリスクがある。 Q15.非消費支出と言われる支出項目はどれ？ A 食費 B 社会保険料 C 居住費 D 通信費 正解はB 家計の実支出には、食費や光熱費など生活に関わる消費支出と、税金や社会保険料といった世帯の自由にはならない非消費支出とがある。一般的な20代の正社員の場合、収入の23%程度が非消費支出になると言われている。 Q16.ローンを利用すると、利息が発生します。利息を決めるのは、「借りる金額」と「金利」と何？ A 年収 B 職業 C 預貯金額 D 借入期間 正解はD 利息は「利息＝借りる金額×年利（金利）×借入期間」により求めることができる。ローンを利用する際は、借りる期間が長いとそのぶん利息も増え、総返済額も増えるので、借入期間を考えて計画を立てよう。高額な借入れは、無理なく返済できるかどうかを冷静に判断し、必要最低限の利用に留めることが重要である。 結果を表示（得点に応じたレベル） 【種子レベル】 しっかり知識を身に付けて社会に出る準備をしよう。 【若芽レベル】 まだまだ、知識が足りないぞ！しっかり学ぼう！ 【若木レベル】 まあまあ。 もっと知識を付けて、豊かな消費生活が送れるように頑張ろう！ 【木レベル】 おいしい！もうちょっとで基礎は完璧。 【果実実っているレベル】 消費者契約の基礎知識は充分です。過信せず、新しい知識を取入れよう。	消費生活の授業を始める前に知識を確認したり、5限目までの授業を終えた後の知識理解度を確認するクイズとして使える。

まとめ

時間	教材・備考	学習内容とねらい	教師の支援
	5-8 app 今後の10年のライフ プランを体験しよう 	2.10年後までの生活設計を考える＜発展＞ 長期的な視点を持って、自分の収入に見合った収支バランスを 考え、生活設計を考える。 本教材で学んだ生活設計を振り返り、資産形成のシミュレーションを行う。	